

■皇極天皇(斉明天皇)

35代・37代天皇。天智・天武天皇の母。讓位と重祚の例を開き、鎌足に抵抗した男まさりの女帝。

こうぎよくてんのう  
仏教興隆の詔 594=

生。父は田村皇子の異母弟の茅渟王，母は欽明天皇の孫の吉備姫王。同母弟に軽皇子(孝徳天皇)がいる。

冠位十二階・603=9歳:

..... 612=18歳:

初め用明天皇の孫高向王に嫁して、漢皇子を生み、

天皇記+国記 620=27歳:

聖徳太子没・622=29歳:

のちに父の異母兄田村皇子に嫁ぎ、

蘇我馬子没・626=33歳: 中大兄皇子(天智天皇)を生む。

推古天皇没・628=35歳: 田村皇子が舒明天皇として即位し、飛鳥岡本宮に遷る。

..... 629=36歳: この頃、間人皇女(孝徳天皇皇后)を生む。

第1回遣唐使 630=37歳: 皇后となる。

百済王子人質 631=38歳: 大海人皇子(天武天皇)を生んだ。

..... 638=45歳:

..... 641=48歳: 夫の舒明天皇が死ぬと、皇位継承の紛争激化を回避するための中継ぎの役割として、

皇極天皇即位 642=49歳: \*即位し、小墾田宮に遷る。夏の早害に蘇我蝦夷誑経するも効無かったところ、南淵の河上で四方を脆拝、雨乞いを成功させて“至徳天皇”と称せられるという巫女王の面影を示す伝承も残されている。舒明朝以来の百済大寺・飛鳥板蓋宮造営のために丁を徴発、労働力編成を通じ、人民支配を強めた。

蘇我入鹿の乱 643=50歳: 飛鳥板蓋宮に移り、皇居とする。朝堂庭での饗において授位のことを議し、各地に随時派遣されていた国司にその勤務励行を促した。大臣蘇我蝦夷がやがて子の入鹿に執政の権をゆだねると、入鹿を大いに親任したが、入鹿が山背大兄王一族を攻め滅ぼし、蝦夷とともに専横を極め、

乙巳の変・・ 645=52歳: \*乙巳の変のクーデタが行われると、弟の孝徳天皇に史上初の讓位、皇祖母尊と呼ばれることになる。

..... 647=54歳:

やがて軍事大権の一部を掌握していた中大兄皇子と孝徳との間に不和が生じるが、皇極は一貫して中大兄支持の立場にあったらしい。

第2回遣唐使 653=60歳: 中大兄皇子に従い、他の子や公卿大夫・百官とともに、飛鳥河辺行宮に遷る。

中臣鎌足紫冠 654=61歳: 孝徳天皇が難波長柄豊碯宮で崩じると、

斉明天皇重祚 655=62歳: \*板蓋宮で再び即位して重祚の例を開き、板蓋宮焼失後、飛鳥川原宮を経て、

..... 656=63歳: 新たに飛鳥岡本宮を営んで移り、さらに田身嶺に両槻宮を造営、また香具山の西から石上山に至る渠を掘削、舟2百隻を使い石上山の石を運び、石垣を築造した。道教的香りの強い、水のテーマパークのような庭園を始め、土木事業に熱心に取り組んで、民の疲弊を招き、“狂心の渠”と批判される。

有間皇子謀殺 658=65歳: 孝徳の遺児有間皇子が謀反の疑いで処刑される事件が起きる。海外では東アジアの緊迫した国際情勢がいよいよその最終段階に入り、

第4回遣唐使 659=66歳: 高句麗征討中の唐に第4次の遣唐使を派遣。

百済滅亡・・ 660=67歳: 唐・新羅連合軍がまず百済を攻略したため、朝廷は百済救援軍を朝鮮に派遣することになり、

朝鮮出兵・・ 661=68歳: \*救援軍指揮のため、中大兄皇子とともに筑紫の娜大津(博多湾付近)の磐瀬(長津)宮に赴き、朝倉宮に移ったが、そこで没した。

遺体は同年中に大和の飛鳥に戻り、6年後、間人皇女とともに大和高市郡の越智岡上陵に合葬された。皇極天皇には「日本書紀」に6首、「万葉集」に3首の歌が伝えられている。